

しいたけの原木と竹の子の汚染分析

石井慶造、金田賢、石崎梓、松山成男、寺川貴樹、菊池洋平
 東北大学大学院工学研究科
 生活環境早期復旧技術研究センター

[しいたけの原木の汚染分析]

1. 目的

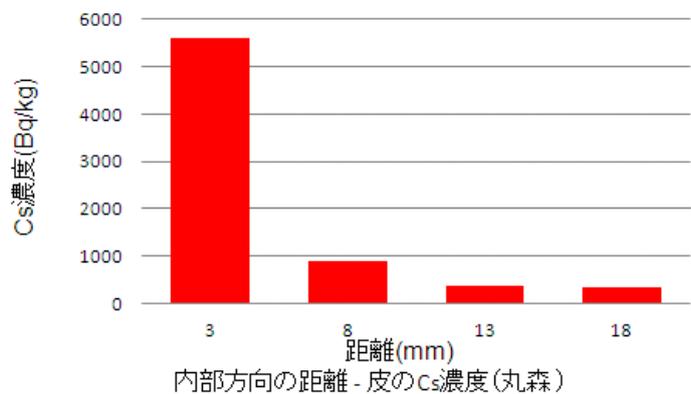
しいたけの原木の汚染状況を調べる。

2. 方法

丸森町から採取した汚染しいたけ原木を断面に垂直方向に削り取り、表面からの距離の関数としての放射能分布をGe検出器で測定する。

3. 結果 (平成24年2月20日発表)

下図はセシウム137の表面からの濃度分布を示す。放射性セシウム137は厚さ5mmの樹皮にほとんど分布していることが分かる。リサーチレポート33ではイメージングプレートでベータ線による分布を調べたが、今回は削り取ってGe検出器で測定したもので直接に測定されたものである。若干の放射性セシウムが原木の中心に染み込んで行った状況が分かる。



[竹の子の汚染分析]

1. 目的

竹の子の汚染状況を調べる。

2. 方法

相馬市から採取した真竹の竹の子の部位ごとの汚染分布をGe検出器で測定する。

3. 結果 (平成24年6月17日発表)

下図のように竹の子を3分割して、その放射能を測定した。下表は単位がベクレル/kgである。竹の子の先端にいくにつれて比放射能が高くなる傾向があることが分かった。この分布はカリウムの分布とは異なるようである。



	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	Cs	40K
上	32.1	68.2	100.3	94.3
中	28.4	37.8	66.2	213.2
下	12.0	9.5	21.5	195.5

作成者：石井慶造